

啓 契

け い ち つ

岐阜県昆虫分布研究会
岐阜大学教育学部生物学教室内

アオマツムシその後	武田 享	11
高富町大桑でサカハチチョウを採集	飯田 逸博	12
西濃地方のカミキリムシ数種について	金森 伸一	13
岐阜県におけるオオウラギンスジ ヒョウモンの交尾飛翔の記録	飯田 逸博	15
岐阜県産アリ類2種の記録	木野村 恭一	16
岐阜県におけるカメムシ類数種の記録	飯田 逸博	17
岐阜県のアカスジキンカメムシ	金森 伸一	17
岐阜県の蝶調査チェックポイントII	飯田 紈昌	18
岐阜県におけるフタバアオイを 食草とするギフチョウ	福川 忠明・金森 伸一	22
岐阜市加納でムラサキシジミを採集	飯田 逸博	22
岐阜市三輪でアカシジミ・ミズイロ オナガシジミ・オオミドリシジミを採集	飯田 逸博	23
岐阜県におけるキボシミスジトガリバの新産地	遠藤 弘志・尾藤 成人	23
紹介 岐阜県産ヤガ科蛾類688種になる	尾藤 成人	24

岐阜県昆虫分布研究会

ア オ マ ツ ム シ ソ の 後

武 田 享
Susumu Takeda

アオマツムシは明治中期頃東京付近に侵入し、戦後その分布域を急速に広めていることと、樹上生活をし、鳴声が独特であるという2つの点から注目されている種である。とくに1979年8月までは東海地域のうち、岐阜県にのみ生息していないとされていた。しかし、1979年9月20日山下善平先生によって岐阜市日之出町紅葉苑のサクラ樹上で、翌9月21日には各務原市那加門前町の旧岐阜大学農学部周辺のサクラ樹上で初めて本種の生息が確認された。

その後の調査により、東濃、中濃地域及び岐阜市東部を中心にかなり広範な地域に生息することが明らかになった。加えて美濃加茂市山之上町のカキ園ではカキの果実を食害することが、わが国で初めて明らかにされ、農業害虫としても無視出来ないことがわかった。その後袋掛けしないナシの果実にも被害が認められ、かつ愛知県犬山市のカキ園でも同様な事例が報告され

ている。この間の経緯については“岐阜県の昆虫”186-187p.に詳しくふれた通りである。

このように本種は果樹害虫としての面をもつことが明らかとなったので、われわれは岐阜県（農業試験場及び病害虫防除所）と共同して若干の調査を行っているので、その一部を簡単に報告することとする。

古くから知られていたわりにその生活史についてのまとまった知見は乏しい。今回の調査で、岐阜地方では5月下旬～6月上旬頃ふ化幼虫があらわれ、8月下旬～9月上旬に成虫が出現することがわかった。また幼虫は8令を経過し、25℃下では約80日の幼虫期間であることも初めてわかった。

岐阜県は有数のカキ産地であることから、県下全域にわたって鳴声を手がかりとして生息状況を調査した。この結果、“岐阜県の昆虫”に示した地域のほか、岐阜市西部、本巣町、糸貫

町、大野町、北方町、真正町、巢南町等のカキ栽培地帯にも生息し、さらに養老町や南濃町の一部でも確認された。

この分布調査のさい、周囲から全く隔絶したところでも生息していることがわかった。例えば八幡町の大滝鐘乳洞、土岐市のウラン鉱山、美並村高砂の星宮神社境内などはそれで、いずれもサクラ、ニセアカシア樹上での生息が確認された。これらの地点は主要道路から2~3km離れており、その途中には針葉樹が主で勿論アオマツムシは生息していない。また1981年新築された岐阜県中濃総合庁舎（美濃加茂市古井町）の周辺に植栽されたヒイラギナンテン上で多数の生息が確認されたのに、その近くに以前からあったサクラ樹上には生息していないといった例もあった。これらのことは、本種の分布拡大には各種の樹木中に産みつけられた卵が大きな役割をはたしていることを示しているようである。事実可児市や愛知県稲沢市などの苗木センターで調査したところ、成虫がかなり生息しており、産卵の認められたものがかなりあり、モクセイ、サツキ、ドウダンツツジ、サザンカ、モミ類、ヒイラギナンテン、サクラ、ナシ、ウメなどにはとくによく産卵されていた。

分布調査のさい雑木林に多数生息し、“セミ

しぐれ”に匹敵するような場所さえ少なからず存在していた。雑木林は樹種が豊富で、薬剤散布も行なわれないため、安全、好適な生息地であろう。1981年美濃加茂市で少面積の雑木林を伐採する機会があったので、27種の樹木について産卵状況を調査したところ、7種に産卵が確認された。このような雑木林にすでに侵入していることからすると、アメリカシロヒトリと異なりかなり以前からこれらの地域に分布していたと推察できよう。

最後に、われわれの研究室で本種の室内飼育を比較的能率よく進めることが出来たが、これはヒイラギナンテンが寄主植物のひとつであることを知ったことが主な原因となったといっても差し支えない。すなわち、当初本種はバラ科植物を主寄主とするという従来の知見から、サクラ、ウメでの成虫や幼虫の採集を試みたが思うにまかせず暗礁にのりあげたかの感があった。偶然にも上記の中濃総合庁舎周辺のヒイラギナンテン上で成虫を採集、さらにこれに産卵することがわかった。このため室内で産卵させ、ふ化幼虫を採集することが容易となり、予想外に研究が能率よく進行している。

(追記) 1983年11月15日長良川以西では、初めて岐阜市長良古津のカキ園(富有)で被害果を確認した。

高富町大桑でサカハチチョウを採集

飯田 逸博
Itsuhiro Iida

山県郡高富町大桑は、高富町では一級の昆虫採集地で、古くから多くの同好者が訪れている。筆者は1976年より採集にでかけていて、

一通りの蝶を採っているが、そのうち記録に残したい蝶、サカハチチョウ *Araschnia buregana strigosa* B. について報告する。

岐阜県山県郡高富町大桑高札; 3-V-1983, 18
(飯田逸博 採集、蔵)

文 献

大沢朗ほか(1982)蝶類. 岐阜県の昆虫, 255-327, 岐阜県.

西濃地方のカミキリムシ数種について

金 森 伸 一
Shinichi Kanamori

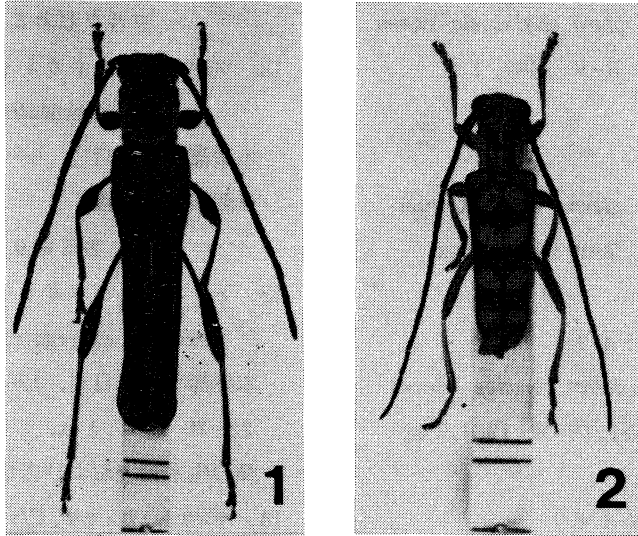


Fig. 1. トラフホソバネカミキリ *Thranium variegatus* Bates
 2. カスガキモンカミキリ *Paramenesia kasugensis* Seki et Kobayashi

西濃地方のカミキリムシ相を解明する上で、ほぼその全貌を伝える武田ら（1979）の労作「岐阜県西濃地方のカミキリムシ」は、重要な資料であり、6亜科98種のカミキリムシが報告されている。

筆者は、武田らの報文にリストアップされていない以下の23種について、その記録を報告する。

採集者名およびその標本保管者は、特に明記しないもの以外は、すべて筆者である。なお採集した状況については、状況記録が残されている種についてのみ記述した。

亜科および種の配列は、小島・林（1974）の「原色日本昆虫生態図鑑Ⅰ カミキリ編」によ

った。

報告にあたり、写真撮影に協力をいただいた、名和昆虫研究所の松尾登貴雄氏に対しお礼申し上げる。

ノコギリカミキリ亜科

1. コバネカミキリ *Psephactus remiger* Harold
 本巣郡根尾村八谷、6-VII-1979、1 ex.
 激しい雷雨の為、緊急停車した車に飛びこんで来た。

ハナカミキリ亜科

2. モモグロハナカミキリ *Toxotinus minutus reini* Heyden
 本巣郡本巣町日当 24-V-1981、1 ex.
 ガマズミの花上

- 3. ピックニセハムシハナカミキリ
Lemula rufithorax Pic
本巢郡根尾村黒津, 5-V-1982, 1 ex.
カエデの花上
- 4. チビハナカミキリ
Grammoptera chalybeela Bates
本巢郡本巢町日当, 5-V-1982, 1 ex.
未同定の花上
- 5. ハリハナカミキリ
Anoblodera cyanea Gebler
本巢郡根尾村門脇, 7-VII-1982, 1 ex.
道路上を飛翔中
- 6. マルガタハナカミキリ
Judolia cometes Bates
揖斐郡徳山村鬼生谷, 19-VII-1981, 1 ex.
シヨウマの花上
- 7. アオバホソハナカミキリ
Strangalomorpha tenuis Solsky
本巢郡根尾村河内谷, 5-VI-1982, 2 exs.
16-V-1982, 1 ex.
ミズキの花上
- 8. キモンハナカミキリ
Leptura duodecimguttata Fabricius
本巢郡根尾村河内谷, 5-VI-1982, 1 ex.
未同定の花上
- 9. ハネビロハナカミキリ
Leptura latipennis Matsushita
本巢郡本巢町日当, 14-VI-1981, 1 ex.
28-VI-1981, 1 ex.
貯木上の材上
- 10. カタキハナカミキリ
Leptura femoralis Motschulsky
本巢郡根尾村河内谷, 5-VI-1982, 1 ex.
未同定の花上
- 11. ミヤマホソハナカミキリ

- Strangalia contracta* Bates
揖斐郡徳山村馬坂峠, 26-VII-1981, 1 ex.
揖斐郡徳山村塚, 9-VIII-1982, 1 ex.
揖斐郡春日村押又谷, 25-VI-1983, 2 exs.
シヨウマおよびサワアジサイの花上
マルクビカミキリ亜科
- 12. ツシマムナクボカミキリ
Cephalallus unicolor Gahan
本巢郡本巢町日当, 5-VIII-1982, 1 ex.
夜間採集 (電燈)
カミキリ亜科
- 13. トラフホソバネカミキリ
Thranium variegatus Bates Fig.1
本巢郡本巢町日当, 12-VI-1982, 1 ex.
22-VI-1982, 1 ex.
桑の生木葉上および広葉樹のスイーピング
- 14. キンケトラカミキリ *Clytus aulipilis* Bates
本巢郡本巢町日当, 6-VI-1982, 1 ex.
貯木場の広葉樹材上
- 15. マツシタトラカミキリ
Anaglyptus matsushitai Hayashi
揖斐郡徳山村馬坂峠, 14-VII-1982, 1 ex.
ミヅキの花上
フトカミキリ亜科
- 16. タテスジゴマフカミキリ
Mesosa senilis Bates
山県郡高富町大桑, 3-VII-1981, 1 ex.
広葉樹材上
- 17. コブスジサビカミキリ
Atimura japonica Bates
揖斐郡久瀬村日坂, 17-IX-1983, 1 ex.
クズのタタキ網により採集
- 18. ヤハズカミキリ
Uraecha bimaculata Thomsom
本巢郡本巢町日当, 6-VI-1982, 1 ex.

6-VII-1982, 1 ex.

貯木場を飛翔中

19. セミスジコブヒゲカミキリ

Rhodopina lewisii Bates

本巢郡根尾村水鳥谷, 12-VI-1983, 1 ex.

(佐中千尋採集 金森伸一蔵)

20. ガロアケシカミキリ

Exocentrus galloisi Matsushita

揖斐郡徳山村入谷, 19-VII-1981, 1 ex.

広葉樹材上

21. キッコウモンケシカミキリ

Exocentrus testudineus Matsushita

岐阜市秋沢, 24-VI-1981, 1 ex.

30-VI-1981, 1 ex.

広葉樹材上

22. カスガキモンカミキリ *Paramenesia*

kasugensis Seki et Kobayashi Fig.2

本巢郡本巢町日当, 26-VI-1982, 1 ex.

広葉樹のスーピング

23. セミスジニセリングゴカミキリ

Eumecocera triwittata Breuning

山県郡高富町大桑, 3-VI-1981, 1 ex.

本巢郡本巢町日当, 5-VI-1982, 1 ex.

いずれも広葉樹材上

セミスジニセリングゴカミキリのこれらの記録は岐阜県の初記録の可能性がある。

武田ら(1979)に記録のない産地についても若干の知見を得ているが、それは別の機会に報告したい。

ヒラヤマコブハナカミキリ、ヅマルトラカミキリ、コブスジサビカミキリ、ムネモンヤツボシカミキリ等の記録を加えても、現在のところこの地方からは、わずか120種強が記録されているのみであり、今後調査が進めばさらに多数の種の記録が追加されるものと思われる。

参 考 文 献

1. 武田享・杉山勉・桜井宏紀(1979) 岐阜県西濃地方のカミキリムシ. 岐阜大学農学部研究報告, 42:1-13.
2. 小島圭三・林匡夫(1974) 原色日本昆虫生態図鑑 I カミキリ編. 302pp. 保育社, 大阪.
3. 清沢晴親 他(1981) 図説長野県のカミキリムシ. 209pp.
4. 野平照雄(1982) 岐阜県のカミキリムシ類. 岐阜県の昆虫.(岐阜県):137-170, 445-469.
5. 鶴殿清文(1971) 岐阜県高尾谷でヒラヤマコブハナカミキリを採集. 佳香蝶, 23(89):142-143.
6. 湯沢宣久(1971) 高尾谷にマズマルトラ採集. むしあみ, 2(4.5):23.
7. 大塚 篤(1982) 揖斐川流域のカミキリムシ2種. 佳香蝶, 34(13):54.
8. ———(1983) 岐阜県におけるムネモンヤツボシカミキリの記録. 月刊むし, 152:34.

岐阜県におけるオオウラギンスジ

ヒョウモンの交尾飛翔の記録

飯 田 逸 博

Itsuhiro Iida

オオウラギンスジヒョウモン *Argyrozone ruslana* M.の交尾飛翔は、♂+♀→であることはよく知られているが、観察記録は極めて少ない。筆者は1983年7月10日、岐阜市芥見大洞光輪へ虫を採りに行った時、偶然にも♂+♀→の交尾飛翔中の本種を目撃し、同固体を採集した。

光輪には本種が多産し、ネムノキ、ヒトツバハギなどの花によく見られた。

岐 阜 県 産 ア リ 類 2 種 の 記 録

木 野 村 恭 一
Kyoichi Kinomura

筆者らは、1982年に「岐阜県の昆虫」の中で岐阜県産アリ類として96種を記録した(木野村ら, 1982・b)。その後の調査によりさらに2種(カドフシアリの1種, ヒラタウロコアリ)の生息が確認されたので報告しておく。

1. カドフシアリの1種 *Myrmecina* sp.

現在、日本産カドフシアリ属 *Myrmecina* は1種(カドフシアリ *nipponica*)が記載されており、岐阜県内にも広く分布している。今回、分布が確認されたカドフシアリの1種は Sonobe (1977)が「宮城のアリ相」の中で“キイロカドフシアリ”と呼んでいるものと同種でカドフシアリより体が小さく、体色が黄色がかった。

(記録) 1982年8月2日、郡上郡明方村坂本 海拔 800 m、林内の石下にて2働蟻採集。

2. ヒラタウロコアリ *Pentastruma carina*

Brown & Boisvert

本種は最近記載されたもので、他のウロコア

リ族 *Dacetini* の種と同様南方系の種類で、本州においては関東以南の太平洋側に分布するものと思われる。したがって岐阜県内においてもその南部地域に生息が予想されていたが、なかなか確認できなかった。しかし、各務原市伊木山において最初のコロニーが見つかって以来、岐阜市金華山、関市小屋名の3ヶ所でその生息を認めることができた。

県内における本種の分布は、おそらく西南濃から美濃地方にかけての平野部一帯に及ぶものと考えられるが、他の南方系要素の強いアリ類と同様にその分布は位山分水嶺をこえ北上することはないと思われ(木野村ら, 1982・a)、県内に分布の北限域をもつと言えよう。

表1に、採集された7つのコロニー(うちNo.1のコロニーは雌が採集されていないので巣の一部かもしれない)の採集内容を示した。いずれのコロニーもやや湿った林内又は林縁部の土中やリター中の木の実に営巣していた。

表 1. ヒラタウロコアリ *Pentastruma carina* Brown & Boisvert

のコロニー構成とその営巣場所

コロニー番号	採集地	採集日	コロニーの構成					営巣場所	
			雌	有翅雌	雄	働蟻	幼虫		
No. 1	各務原市伊木山	21-XI-1982	0	0	13	138	24	土	中
No. 2	各務原市伊木山	28-XI-1982	1	0	0	26	16	土	中
No. 3	各務原市伊木山	5-XII-1982	1	0	0	73	22	土	中
No. 4	関市 小屋名	30-I-1983	1	0	5	70	15	リター中の	ドングリの実
No. 5	関市 小屋名	6-I-1983	1	0	14	61	19	リター中の	ドングリの実
No. 6	関市 小屋名	6-I-1983	1	0	1	13	7	リター中の	ドングリの実
No. 7	岐阜市 金華山	11-II-1983	3	5	0	53	20	リター中の	ドングリの実

参 考 文 献

木野村恭一・後藤研也・春日井道德・山内克典
(1982・a) 岐阜県のアリ類, 岐阜県の昆虫
(岐阜県): 121-136.

(1982・b) 岐阜県産昆虫目録 アリ類. 岐
阜県の昆虫 (岐阜県): 431-444.

Sonobe, R., (1977) Ant fauna of Miyagi
Prefecture, Japan. Jap. J. Ecol., 27 :
111-116.

岐阜県におけるカメムシ類数種の記録

飯 田 逸 博
Itsuhiro Iida

岐阜県での記録が少ないと思われるカメムシ
の5種について報告する。

いずれも筆者が採集したものであり、標本も
筆者が所蔵している。

1. ウズラカメムシ *Aelia fieberi* Scott
岐阜市厚見上川手; 25-VI-1983, 1 ex.
2. ベニモンツノカメムシ *Elasmotethus
humeralis* Jakovlev
郡上郡白鳥町北濃千田野蓮原川谷; 22-V-
1983, 1 ex.
3. クヌギカメムシ *Urostylis westwoodi*
Scott
不破郡関ヶ原町大高; 4-VII-1983, 1 ex.
4. オオホシカメムシ *Physopelta gutta*
Burmeister

岐阜市芥見和光町; 22-V-1983, 1 ex.

5. エビイロカメムシ *Gonopsis affinis*
Uhler
土岐市泉町大富; 26-VI-1983, 1♂, 1♀.
岐阜市日野本郷西沖; 15-VIII-1983, 1 ex.

岐阜県のアカスジキンカメムシ

金 森 伸 一
Shinichi Kanamori

本誌(啓蟄, 1(1): 6)において、揖斐郡徳山
村のアカスジキンカメムシ *Poecilocoris lewisi*
D. を報告したが、さらに以下の2例の記録を
報告する。

- 岐阜県揖斐郡春日村押又谷; 25-VI-1983, 1 ex.
(広葉樹上で採集)
- 岐阜県益田郡馬瀬村西村; 3-VIII-1983, 1 ex.
(広葉樹上で採集)

啓蟄の原稿を募集します

- 原稿は原稿用紙に書いて下さい。
- 出来上り6ページ(400字詰原稿用紙約20
枚)以上の報文を一挙掲載する時は、原則
として、超過分費用を著者負担とします。
- 原稿の書き方は、投稿規定が出来る間、本

号を参考にして下さい。不備な原稿は、編
集者が訂正を求めることがあります。

- 原稿の送り先、照会先は下記のとおりです。

〒500 岐阜市加納南陽町三丁目
岐阜県立加納高等学校内 田中正弘 宛

岐 阜 県 の 蝶 調 査 チ ェ ッ ク ポ イ ン ト Ⅱ

飯 田 閑 昌
Kunimasa Iida

筆者は常々、岐阜県内の蝶類の分布状況を正しく把握するためには、蝶類全般にわたる片寄りのない生息状況調査の実施とその結果の公表、あるいは正確なデータの集積が必要であると考えている。しかし現実には、いわゆる「珍品主義」「秘密主義」が横行する等、蝶類の分布調査をおこなっている者にとって、好ましくない状況も一方に存在している。

そこでこの様な状況を少しでも改善するため、また岐阜県の蝶類分布調査の基礎資料となすため、前報(本誌 Vol. 1. No. 1: 1-6)では、セセリチョウ科、アゲハチョウ科の32種の蝶類について、岐阜県における分布状況の概要と分布上の位置付けを紹介するとともに、今後どのような事項に注目して分布調査を実施したらよいかの指針について、筆者の考え方を述べた。

今回はシジミチョウ科の27種について、最近の知見を含めて報告する。

シジミチョウ科

33) ムラサキシジミ

暖帯性常緑森林帯の蝶で岐阜県西南部に広く分布しており、選定基準種Cに相当する。

アラカシが一次主食であるため、市街地でもアラカシやシラカシがあれば発生する事もある。飛騨地方では少ないが、他の地域でも「こんなものか」と思わずに採集する必要がある。

34) ムラサキツバメ

過去に金華山で採集された記録および未公認になっている中尾某氏のコレクションが存在す

る。

暖帯性常緑森林帯で局地的に発生している蝶であるが、この理由は食樹のシブリカガシの分布に起因する。金華山では非常に多くのカシ類が見られるが、シブリカガシは極めて珍しいので、本種が確実に生息しているか否かは疑問である。

滋賀県下においても、過去の記録は数例しかないが、最近シブリカガシが他地域より移植された大津市付近の低地で発生している事が発表された。

この様なことから考えてみると、岐阜県西南部にも同様な事例があれば、意外な場所でも発生する可能性がある。

35) ウラゴマダラシジミ

温帯性森林帯に広く分布するので、選定基準種Gに相当する。

ゼフィルスとしては特異な型や性質がある。生態的には原始的であり、低山地に多く生息するが、一般のゼフィルスより早く発生するため、通常のゼフ採集期にはほとんど採集されず、珍しい種とされていた。しかし採卵法の普及によって広く分布している事が分って来たが、食樹をバッサリ切る事が多く、そのため個体数が急に減少する事も少なくない。本種には山地型と平地型があるので、この点も明記する事が大切である。

36) ウラキンシジミ

温帯性落葉樹林帯に広く分布し、選定基準のB、D、E、Fに相当する。

最近岐阜市周辺にも、産地が多く発見されている。しかし、採卵が簡単なために乱獲が激しかったり、自然でも食樹の食いつきが悪かったりするため一部地域では絶滅に近い産地もある。

本種には寒冷地で、前翅表に橙色斑の出る個体や後翅紅色付近に橙色斑の出る個体が異常型として発表されているが、筆者は遺伝型と考えている。また、大野町の個体を飼育、羽化させたところ、2個体に前翅表に橙色斑の個体のみられたが、この件は別に発表する予定でいる。

37) ムモンアカシジミ

温帯性森林帯に局地的に分布し、選定基準のB、C、Dに相当する。中部分布圏では岐阜県が西限となっているので、十分に調査する必要がある。

採集に行くとき産地が非常に狭いため、発生ポイントをはずすと全く発見出来ない事が多い。さらに幼虫の食性も半肉食となっているので飼育もむづかしい。分布記録の中に採卵記録が無い事もやむを得ない事と思われる。

38) アカシジミ

暖帯性や温帯性の広葉樹林帯に分布し、選定基準Gに相当する。食樹も2次林として広く分布している。

記録をみると県下では、一般に平地から2,000m位の高地にまで広く分布している。しかし、個体数は少ない。

39) ウラナミアカシジミ

暖帯性や温帯性の落葉広葉樹林帯に広く生息するが、食樹が限定しているため分布も限られている。本種が前種と混棲している地域もあるが、通常は本種の発生時期は1週間程遅れ、一般的にはアカシジミとは別に発生している。調査に当たってはこの点にも注目したい。

選定基準はGに相当する。

40) オナガシジミ

温帯性森林帯に離散的に分布し、特に中部地方以西では局地的に分布するので選定基準のB、C、Dに相当する。

伊吹山地では記録が少なく、両白山地では、福井県側に多く発生しているが、岐阜県側では採集報告が少ない。

41) ミズイロオナガシジミ

暖帯性や温帯性の広葉樹林帯に広く分布し、選定基準Gに相当する。

一般に普通種といわれるが、記録の片寄りが激しいため、本来の普通種であるのか否かは不明である。

成虫では数型の異常型が発生するので、その区別が出来た場合には、その点を含めた報告が望まれる。

42) ウスイロオナガシジミ

温帯性落葉広葉樹林帯に離散的に分布する。

主要食樹のカシワは、岐阜県では少なく、自然の状態では東濃地方の一部にしか見られないが、ここでも本種の記録はない。岐阜県ではミズナラを食しているために、発生量が少なく、珍しい種である。

選定基準のBに相当する。

43) ウラミスジシジミ

温帯性落葉広葉樹林帯に離散的に生息する。

産地の多い長野県では分布も広く、多産しているが、滋賀県、愛知県では成虫の採集例が数例しかなく、珍しい。岐阜県では発生地が少なく、発生量も少ないため記録が限られている。最近、岐阜市近郊や伊吹山地でも採集されたので、低山地にもわずかながら発生していると思われる。

44) ウラクロシジミ

温帯性広葉落葉樹林帯に広く分布することに

なっているが、岐阜県と滋賀県では通常の産地より異常に標高が低い暖帯性広葉落葉樹林帯に分布している。しかも、本種の多産地ともなっている岐阜市周辺の低山地では、開発されている所が多く、かつての産地であった場所の中には本種がすでに絶滅している所もある。

選定基準のB、D、Eに相当する。

45) ミドリシジミ

暖帯性や温帯性の広葉樹林帯に広く分布している。主要食樹のハンノキは、湿地を中心に分布しているが、開発による水田化が進み、ミドリシジミが一時絶滅した所もあった。しかし、最近では、農業の方法が改められたことともない再び湿地化が進むとともに農薬の使用がひかえられるようになったために、本種の発生量が多くなった。

産地ごとに雌の4型の比率が異なっているので、記録する場合には、雌の型を明記する必要がある。

46) メスアカミドリシジミ

温帯性落葉樹林帯に分布する山地性の蝶であり、選定基準のBに相当する。

飛騨山地、両白山地、東濃山地に生息し、最近伊吹山地でもかなりの個体が記録できた（後日発表の予定）。鈴鹿山地では現在のところ記録がない。食樹のヤマザクラは、山地ならばどこにでも植生しているが、食樹のある場所であっても本種が生息しない場所もあり、この理由は明らかにされていない。

47) アイノミドリシジミ

温帯性落葉樹林帯に広く分布する種で選定基準のBに相当する。

少ないながら岐阜県における記録は存在するが、東濃地方での記録は無い。

比較的山地性の強い種と思われ、ミズナラ帯

の指標種と考えられていたが、コナラも食する所が多く、低地にも生息している。岐阜市周辺でも本種の記録があり、分布的にも注目される。

48) ヒサマツミドリシジミ

本種の生息を確認するためと称して、誰でも卵を採集してしまう。こんなひどい状況にさらされている産地があまりにも多すぎる。

標本の個体数を自慢するために、採集の困難な成虫を集めるよりも、採卵、飼育して多くの個体を入手する愚行が増えている。

このような傾向を生み出す背景には「珍品」「極珍品」という凶鑑などの記載の内容の問題もある。本種に関してはこのような記載内容と現実とのズレがあまりにも激しい。本種の採集をめぐるトラブルが跡を断たない中で、今一度原点に立ち帰り、「採集する楽しみ」を取り戻さなければならない。

暖帯性の森林帯から温帯性の森林帯への移行部で、ウラジロガシがあれば、本種が発見される可能性が高い。

選定基準のB、C、D、Fに相当する。

49) キリンマミドリシジミ

暖帯性常緑樹林帯に広く分布し、県下西南部ではヒサマツミドリシジミと共に典型的な普通種である。選定基準のB、D、Fに相当する。

ヒサマツミドリシジミと共に、美しい珍品種とされているために、木を切り倒して卵を採集するという荒っぽい方法をとっている人が多く、社会的批判をあびる事が多い。分布調査といえども、不法行為は虫屋として厳に慎むべきである。

50) フジミドリシジミ

温帯性森林帯のブナ帯における指標種である。標高500m位からブナが植生しているため、この様な所からの調査を進める必要がある。

全国的にみても本種は、広くブナ帯に分布しているが、発生量は少ない。

岐阜県では、県境が山地になっているためこの地域にブナが多く植生しているが、飛騨山地には記録が比較的多く、両白山地には記録が少ない。また東濃地方では、恵那山付近にブナの植生がみられるが、本種の記録はない。

51) オオミドリシジミ

図鑑によれば、平地性ゼフィルスで普通種となっているが、記録は特定の産地が多く、本当に普通種か否か疑わしい。

暖帯性森林に広く分布し、発生個体数は少なく、選定基準のGに相当する。

52) エゾミドリシジミ

温帯性森林帯のミズナラ帯に広く分布する山地性の種で、選定基準のGに相当する。

飛騨地方に記録が多く、また両白山地では普通であるが、東濃地方ではほとんど記録がない。一部の地域ではコナラを食する個体があり、形態的にも異なるものが出現する。このため食樹の確認も必要である。

53) ハヤシミドリシジミ

温帯性落葉樹林帯で遺存的に分布する種であり、カシワ帯の指標種でもある。

岐阜県での自然植生としてのカシワは東濃の丘陵地付近しか見られない。したがってハヤシミドリシジミの記録もこの付近しかない。

農家がカシワの植生を行なっている所もあるが、やはり年々少なくなる可能性の方が強いいため、本種も減少するものと思われる。

54) ジョウザンミドリシジミ

本種はアイノミドリシジミ、エゾミドリシジミと混生している。また、多雪地帯にも多いともいわれ、飛騨地方に生息地が多く知られている。両白山地には記録が少なく、まだ未開発の

産地が多い。東濃地方では恵那山に生息しているものと思われるが、いまのところ記録がない。

なお最近伊吹山地において、わずかながら採集された。(後日発表の予定)

55) クロミドリシジミ

今まで岐阜県では未公認の蝶であった。

クヌギの古木のある場所で、長野県の産地によく似ている場所に生息しているものと推理していたが、1983年、恵那郡上矢作町にて採集された旨の情報を、筆者は得ることが出来た。

56) トラフシジミ

暖帯、温帯森林帯に広く分布する。特に珍しい種でないが、多産する種でもなく、狙って採集できるものではない。したがって有名な採集地で、目的とする蝶の採集のついでに本種を採集するという状態がほとんどである。

平地にも生息しているが、記録として残されているものが少ないので、しっかり調査し正確な記録を残しておく必要がある。

57) カラスシジミ

温帯性森林帯に局地的に分布し、県下では飛騨地方のみ記録がある。寒地性が強い種とされているので、岐阜県では、両白山地、恵那山付近に分布する可能性が考えられる。又食草のハルニレとの関係が強く、ハルニレを発見した場合よく調査する必要がある。

58) ミヤマカラスシジミ

温帯性森林帯に広く分布する。

ベニモンカラスシジミが新しく発見されて以来、採卵による採集方法がエスカレートして、その結果として、ベニモンカラスシジミと混生する本種の新しい生息地が記録されてきた。夏期において成虫を記録する人は少なく、今後も採卵による記録が増加するものと思われる。岐阜県西南部では石灰岩質の山地が広いので、本

種が多数生息するものと思われる。

59) ベニモンカラスジミ

温帯性森林帯に局地的に分布するが、現在までの知見では、岐阜県には分布しないとされている。しかし県下西南部一帯には、全国有数の石灰岩の山地が多く、この様な所に本種が分布している可能性は強く、もっと精力的に調査を行なうことが必要である。

「本種が採集された」という情報は、一部で

「ガセ」ともいわれているが、本種の採集が事実であるとすれば、しばらくの間秘密にされるところでも、いずれ詳細な記録が発表されるものと思われる。

又、食樹であるコバノクロウメドキは自生能力が弱く、大きな枝を切断すると枯死する事があるため、食樹を得る時は、一部の枝を切るにとどめたいものである。

岐阜県におけるフタバアオイを食草とするギフチョウ

稲川 忠明
Tadaaki Inagawa

金森 伸一
Shinichi Kanamori

従来、岐阜県産のギフチョウ *Luehdorfia japonica* L. は、大部分の地域でヒメカンアオイを食草とし、ウスバサイシン（吉城郡および大野郡の一部）とスズカカンアオイ（多治見市の一部）をも食草としている。

筆者らは、フタバアオイを食草としているギフチョウの幼虫について報告する。

1983年6月3日、揖斐郡久瀬村乙原地区のある山の斜面に発達している大規模なフタバアオイの群落より、数群に分散しているギフチョウの3齢幼虫を観察した。また、食痕の認められる葉裏より脱皮殻が観察された。

持ち帰った幼虫の一部は、同時に持ち帰ったフタバアオイを食餌として蛹化した。

しかし、この地区でギフチョウがフタバアオイを食草として毎年コンスタントに発生しつづけているのかどうか、或いは、今年が偶発的なものであるのかどうかといったことは、明年以

降の観察にまたなければならぬので、この観察例だけで「岐阜県産ギフチョウにフタバアオイを食草としている群が存在する」と軽々に判断するのはさけない。

岐阜市加納でムラサキシジミを採集

飯田 逸博
Itsuhiro Lida

筆者は、岐阜市加納でのムラサキシジミ *Narathura japonica* M. の記録は注目すべきであるとしたが（飯田，1982）、筆者自身も岐阜市加納で本種を採集し、標本を所有しているので報告する。

岐阜市加納鉄砲町5丁目；12-VI-1982, 1♂.

筆者は加納へはよく出かけているが、本種をみたのはこの一例のみで、恐らく、飛来個体と思われる。

加納ではゼフィルスゼフィルスの食樹であるカシ類、ナラ類などが若干見られるが、市街地であるため、ゼフィルスは恐らく生息しないものと思われる。

文 献

飯田逸博(1982) 岐阜市の蝶(その2). 佳香蝶,

34(130): 35-38.

岐阜市三輪でアカシジミ・ミズイロオナガシジミ・オオミドリシジミを採集

飯 田 逸 博
Itsuhiro Iida

筆者は、岐阜市三輪のゼフィルスとしてウラゴマダラシジミ、ウラキンシジミ、ウラクロシジミの3種を報告したが(飯田, 1982)、これらの3種以外にアカシジミ、ミズイロオナガシジミも採集しているので報告する。なお、1982年の筆者による報告ではゼフィルス類の分布図は示されているものの、採集地の詳細な地名が記されていないので、本報で三輪産ゼフィルスの全種についてのデータを一括して記載する。

1. ウラゴマダラシジミ

岐阜市三輪出屋敷¹⁾; 19-V-1980, 1♂. (羽化)
飯田逸博幼虫採集・同飼育

2. ウラキンシジミ

岐阜市三輪出屋敷¹⁾; 28-VI-1978, 1♂.
飯田逸博採集・所蔵

3. ウラクロシジミ

岐阜市三輪出屋敷¹⁾; 26-V-1978, 1♂.
飯田逸博採集・所蔵

4. アカシジミ

岐阜市三輪福富; 29-V-1983, 1♂.
飯田逸博採集・所蔵

5. ミズイロオナガシジミ

岐阜市三輪福富天神前; 19-VI-1983, 1 ex.
飯田逸博採集・所蔵
岐阜市三輪福富; 19-VI-1983, 1 ex.
飯田逸博採集・所蔵

6. オオミドリシジミ

岐阜市三輪福富; 19-VI-1983, 1♀.
飯田逸博採集・所蔵

文 献

- 1) 飯田逸博(1982) 岐阜市の蝶(その2).
佳香蝶, 34(130): 35-38.

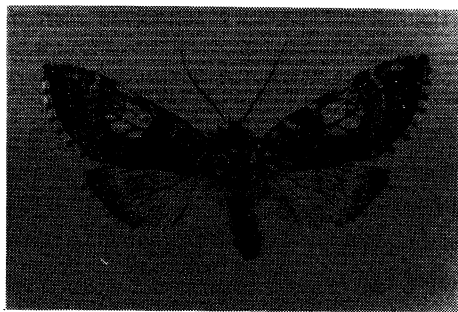
岐阜県における

キボシミスジトガリバの新産地

遠 藤 弘 志
Hiroshi Endo

尾 藤 成 人
Narihito Bito

岐阜県におけるキボシミスジトガリバ *Achllya longipennis* Inoue の産地は、いわゆる飛騨ブロックである朝日村胡桃島、高根村野麦峠、上宝村安房平、高山市日影平の4地点(海拔1,300~1,700 m 附近) が知られていたが(尾藤ほか、1978)、今回飛騨西ブロック内の荘川村中山峠



(海拔1,375 m) においても本種を採集したので、ここに記録しておく。

大野郡荘川村中山峠, 3-V-1983, 2 exs.

文 献

尾藤成人・遠藤弘志・田辺達也(1978) 岐阜県飛騨地方早春の蛾類報告(アズサキリガ・キボシミスジトガリバの記録を含む). 誘蛾燈, 74: 153-154.

(紹介)

岐阜県産ヤガ科蛾類 688 種になる

尾藤 成人
Narihito Bito

岐阜県産のヤガ科蛾類は 663 種が知られていたが(尾藤, 1983)、さらに 24 種が追加されたので紹介する。この内ヒメアシブトクチバは田中(1970)が、ムラサキヨトウは武田ら(1979)が、ハイイロコヤガは船越(1982)がすでに報告したものであるが、「岐阜県産昆虫目録、ガ類(ヤガ科)」(遠藤ら, 1982)に記載されていない種である。また、ニセミスジアツバは、大和田(1982)が新種として記載し、岐阜県産のものが副模式標本に指定されている。さらにナマリキシタバ、オオキイロアツバの 2 種は、市橋ら(1983)が、残り 19 種は船越(1983)が新たに岐阜県から記録したものである(船越はこの 19 種の他、*Lithacodia* sp. とヒメクロアツバの 2 種をも県下未記録の蛾として報告しているが、前者は現在種名未決定であり、後者は本誌ですでに紹介済み(尾藤, 1983)なので除外した)。

1. ヒメアシブトクチバ *Parallelia dulcis* Butler
2. ムラサキヨトウ *Lacanobia contigua* Denis & Schiffermüller
3. ハイイロコヤガ *Catoblema obliquisigna* Hampson
4. ニセミスジアツバ *Paracolax bipuncta* Owada
5. ナカトビヤガ *Chersotis cuprea* Denis & Schiffermüller
6. ツマグロキヨトウ *Aletia simplex* Leech
7. アトジロキヨトウ *Leucania compta* Moore
8. エゾスジヨトウ *Doerriessa crambiformis* Sugi
9. カバイロウスキヨトウ *Epipsammia confusa* Sugi
10. ツマモンキリガ *Allocosmia coreana* Matsumura
11. ヒロオビクロギンガ *Chasminodes nigrilinea* Leech
12. マエシロモンキノカワガ *Nycteola costalis* Sugi
13. シロスジシマコヤガ *Corgatha dictaria* Walker
14. ヤマトコヤガ *Arasada ornata* Wileman
15. ホシコヤガ *Ozarba punctigera* Walker
16. ソトジロツマキリクチバ *Arytrura musculus* Ménétriès
17. クロシモフリアツ

- バ *Bryograptia kogii* Sugi, 18. オオトウアツバ *Corsa petrina* Butler, 19. チャバネキボシアツバ *Paragabara ochreipennis* Sugi, 20. ウスオビチビアツバ *Mimachrostia fasciata* Sugi, 21. クロスジヒメアツバ *Schrankia costaestrigalis* Stephens, 22. アカマエアツバ *Simplicia rectalis* Eversmann, 23. チョウセンセンコウスグロアツバ *Zanclognatha leech* South, 24. ナマリキシタバ *Catocala columbina* Leech, 25. オオキイロアツバ *Pseudalelimma miwai* Inoue.

文 献

- 尾藤成人(1983) 岐阜県産ヤガ科蛾類 663 種になる。啓蟄, 1(1): 10.
- 遠藤弘志 他(1982) 岐阜県産昆虫目録、ガ類(ヤガ科). 岐阜県の昆虫: 329-397. (岐阜県)
- 船越進太郎(1982) 岐阜県北西部の蛾相, 66pp.
- (1983) 岐阜県産ヤガ 21 種の追加記録. 誘蛾燈, 93: 129-133.
- 市橋史康 他(1983) ナマリキシタバ・オオキイロアツバの岐阜県における発見. 誘蛾燈, 93-133.
- 大和田守(1982) ヤガ科. 井上寛ほか, 日本産蛾類大図鑑, 1: 921pp.
- 武田享 他(1979) 岐阜県高山市日影平の蛾 I, ヤガ科. 岐阜大学農研報, 42: 15-32.
- 田中蕃(1970) 岐阜県郡上郡北部の蛾(I). 佳香蝶, 22(84): 93-137.

啓 けいちつ 蟄 Vol. 1 No. 2

発行日/昭和 58 年(1983 年) 12 月 20 日

編集者/田中正弘 尾藤成人 木野村恭一

発行者/岐阜県昆虫分布研究会

〒501-11 岐阜市柳戸 1 番 1
岐阜大学教育学部内
TEL 0582 (30) 1111 内線 3162
郵便振替 名古屋 5-8149
年額会費 3,000 円

印刷所/名港印刷株式会社
名古屋市中区築三町 3-6